

大学・附属高等学校・附属幼稚園との保育学習連携の試み

－保健福祉コース保育選択者である
高校生のふりかえりににおける学びの過程－

An attempt in the collaboration in nursing training among different educational institutions

－The process of the development through reflection acquired
by the high school students who take the elective subject
“the early childhood education”－

二階堂 邦子¹⁾ 保田 裕子²⁾ 小池 徳子³⁾ 外西 俊一郎⁴⁾
山本 幸⁵⁾ 上野 ひかり⁶⁾ 勝亦 絵里華⁷⁾ 松原 好子⁸⁾

*Kuniko NIKAIDO, Yuko HOTA, Noriko KOIKE, Shunichiro HOKANISHI
Miyuki YAMAMOTO, Hikari UENO, Erika KATSUMATA and Yoshiko MATSUBARA*

Abstract

This study aimed to examine the process of 16 high school students' development in training education for nursery teachers. They were students of the Health and Welfare Course at Nikaido High School attached to Japan Women's College of Physical Education (JWCPE). Their special subject was childcare nursing. They had practical nursing training at Midori kindergarten which is attached to JWCPE. This paper reports on what processes they used to improve themselves in the practice of nursing training. The study duration took three years, from 2011 through July, 2013. The students' records of reflection in practical training were used as survey instruments. The result showed the significant collaboration under the common educational philosophy implemented among these institutions. The mutual relationships among environment, human beings, things, and time had great effects on the students' development in practical training. The students' reflection underwent an expansion into various meaningful stages: observation of the children, noticing, recognition, sympathy, accompanying and nestling the children, nurture in which children are treated with respect, the philosophy claiming that children are free, and self-improvement in nurture. This study suggested that the recording with reflection achieved a positive effect on nursing training.

Keywords : *high school students, kindergarteners, practical nursing training, reflection, collaboration*

I. 背景

二階堂トクヨが創立（1922年：大正11年）した学校法人二階堂学園は、現在、日本女子体育大学、大学院、2つの高等学校、2つの幼稚園と1つの保育室を運営し、2013（平成25）年90周年を迎えた。

その中の日本女子体育大学附属二階堂高等学校（創立1948年：昭和23年）と日本女子体育大学附属みどり幼稚園（創立1947年：昭和22年）は世田谷区松原の校地にある。大学・高等学校・幼稚園は、教育において協力連携を実践しており、図1のような体制をとっている。

日本女子体育大学は4専攻あり、その1つの幼児発達学専攻は、保育者養成の専門科目の一部において、附属みどり幼稚園園舎で園児とかかわる授業形態をとっている。その具体的な科目は、「運動あそび」、「保育内容の研究（表現A）」、「保育内容の研究（人間関係）」、「保育指導法演習」、「子ども観察演習」である。

- 1) 日本女子体育大学（教授）
- 2) 日本女子体育大学附属二階堂高等学校（教諭）
- 3) 日本女子体育大学附属二階堂高等学校（教諭）
- 4) 日本女子体育大学附属二階堂高等学校（校長）
- 5) 日本女子体育大学附属みどり幼稚園（教諭）
- 6) 日本女子体育大学附属みどり幼稚園（教諭）
- 7) 日本女子体育大学附属みどり幼稚園（教諭）
- 8) 日本女子体育大学附属みどり幼稚園（園長）

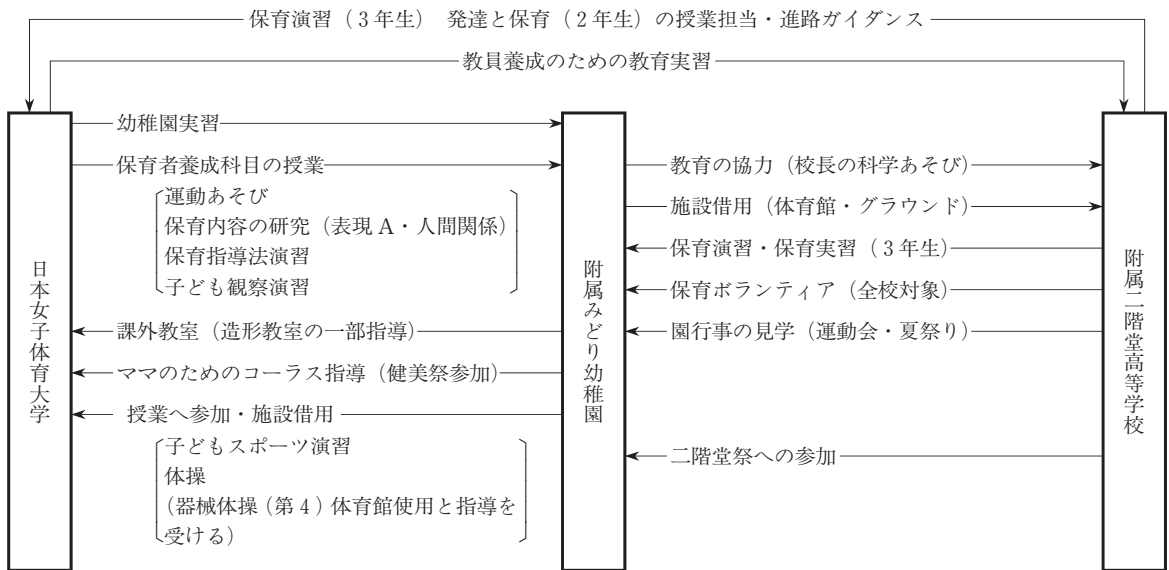


図1 3校の協力連携関係組織としての要請 (←…組織としての要請)

附属二階堂高等学校は文武両道を目指す普通科で、総合進学コース、体育コース、保健福祉コースを設置している。保健福祉コースは平成21年度に設置され、「福祉」という分野を保育や看護医療も含めた広い「保健福祉」という視野で捉え、2年次から希望により福祉選択者、看護選択者、保育選択者の3グループに分け、専門分野の授業を通して、進路への関心と意欲を高める授業を行っている。

また、附属二階堂高等学校保健福祉コースでは、平成24年度の2年次より、保育選択者を対象に日本女子体育大学の教員が「発達と保育」「保育演習」の科目を担当し、3年次には1週間（2013年5月13日～5月17日）、附属みどり幼稚園での実習体験を行い、子どもたちとの交流を図っている。

附属みどり幼稚園は、園庭が狭いため、高等学校の校庭、体育館を行事（運動会・発表会）、授業（運動あそび）時に借用し、高等学校、大学における子どもとふれあう授業に協力をしている。

日本女子体育大学・日本女子体育大学附属二階堂高等学校・日本女子体育大学附属みどり幼稚園の3校は、共に学生・生徒・園児のよりよい学校生活のために人的交流、場の交流、施設の交流を行っている。

II. 目的

高等学校の保健福祉コースのうち保育選択者に対

し、将来を見つめ、さまざまな人と共に生きる喜びや支えあう大切さを学び、進学への関心と意欲を深め、職業に対するイメージを深める教育を目標としている。

その実現のため3年間を通して、保育系大学への進学に重点を置き、カリキュラムを編成し、以下の実践的具体的な内容を組み入れた。

1. 学習の事前・事後指導において、記録のとり方、観る視点のアドバイスをし、「ふりかえりシート」に記録をつけて、保育の過程、気づき、子どもとのかかわりについて学ぶ
2. 附属みどり幼稚園の見学と行事参加を通して、子どもの発達段階を知り、保育者の動き、対応を学ぶ
3. 実習を通して、子どもとのかかわり、一日の流れ、安全面、保護者への対応を学ぶ
4. 障がい児との交流、ボランティア活動への参加、手話講座等の研修を受ける
5. 2年次（平成24年度）より、日本女子体育大学の教員が、「発達と保育」「保育演習」の科目を担当し、附属みどり幼稚園の5歳児を対象に生徒が指導し、実践を学ぶ

以上の実践を通して、「人を育てるとはどういうことか・子どもを知るとはどういうことか・共感するとはどういうことか・よりそうとはどういうことか・子ど

もを尊重するとはどういうことか」を保育を志望する高校生がどのような過程で、子どもから学び、自分なりの保育を構築していくのか、その過程を生徒たちが実践して学んだふりかえり（実践記録レポート・実習ノート・保育指導後）の記録から、読み取り、保育に関する学びの過程を報告する。

Ⅲ. 方 法

Ⅲ－１．対象……高校生16名（保健福祉コースのうち保育選択者）

Ⅲ－２．方法……下記に示すように生徒がみどり幼稚園の行事に参加した1～5の記録を共同研究者で読み取る。

分析方法は、生徒ひとりひとり16名の実践記録レポート、実習ノート、実践指導後のふりかえり記録を、各自が4つの分類で別け、それを持ち寄り、共同研究者で検討した。分類の視点は、①子どもの行動や言葉など子どもに対して感動したこと、発見したことなど子どもに視点をあててかかれた記録、②保育者の動き、子どもとのかかわり、保育の方法など保育者に視点をあててかかれた記録、③生徒自身の気づき、課題、反省、自らに視点をあてた記録、④保育内容や環境設定などに視点をあててかかれた記録とした。

1. ミニミニ運動会見学の記録（1年次）
2. 夏祭り見学の記録（1年次）
3. 運動会見学の記録（2年次）
4. 幼稚園実習における実習ノートの記録（3年次）
5. 5歳児への保育「えをかく」の実践授業後の記録（3年次）

Ⅲ－３．期間……2011（平成23）年4月～2013（平成25）年7月

表1は、2011（平成23）年度入学生の3年間の専門分野の授業とコース行事の一覧である。

Ⅳ. 結 果

1年次、2年次、3年次における目的、実践内容、

ふりかえり学習の記録は以下のとおりである。

Ⅳ－１．1年次のふりかえり学習の記録

附属みどり幼稚園との連携を深め、園長先生から現場の声を聴き、園行事であるミニミニ運動会、夏祭りに見学参加する。事前学習では、観察の仕方を指導し、体験したこと、園児や保育者の様子などをふりかえりシートに記録する。生徒は、園児や保護者、先生と交流ができて良かった。園児の楽しそうな顔がみられてよかったと、体験学習に前向きに取り組む姿勢があった。

Ⅳ－２．2年次のふりかえり学習の記録

「発達と保育」の授業で子どもの発達、発達、遊びの理論を学ぶ。運動会を見学し、園児、保護者、保育者の動きや配慮を記録する。生徒は、園児たちの行動がすばやく、ラーメン体操も楽しそうに踊っていた。先生も楽しまないと園児も楽しめないということ学びはじめた。

Ⅳ－３．3年次のふりかえり学習の記録

保育実習を2013年5月13日～17日まで附属みどり幼稚園（5歳児・4歳児・3歳児各3クラス）に2名ずつ入り、実施をする。一日の流れ、園児とのかかわり、保育者と園児のかかわり、安全面、保護者への対応について記録する。

1) 実習ノートにおけるふりかえり記録

①子どもに対する気づき

実習初日の実習ノートには、園児がかわいい、おもしろい、明るい、元気という記述や、園児がしてくれたことや感心した行動の記述が多かった。

実習が進むにつれ、園児の表情を観察したり、会話を聞く余裕も生まれ、園児が言葉の意味もわからないまま使ったり、うまく発音ができなかったり、会話のキャッチボールもうまくできていないことに気づいた。また、遊びや絵に個性や想像力を感じたり、男女の遊びの違いに気づいたり、鉄棒の前まわりはできるがさかあがりはできないなどの園児の行動を分析するなどの記述が増えてきた。生徒が想像していたよりも、園児は色々なことを考え、色々な感情を持っていることに驚いた記述もあった。

②保育者に対する気づき

実習初日の実習ノートには、先生がやさしい、すごいといった抽象的な感嘆する表現の記述が多かった。

表1 平成23年度入学生（現3年生）保健福祉コースの授業とコース行事について

※（ ）内の数字は単位数を表す

	1年次	2年次	3年次
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉基礎(2) ・社会福祉実習(1) ・家庭基礎(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉基礎(2) ・コミュニケーション技術(2) ・訪問介護員養成研修2級課程（ホームヘルパー2級）(4) ・社会福祉実習(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・こころとからだの理解(2)
福祉選択者		<ul style="list-style-type: none"> ・看護基礎医学(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉演習(2) ・保健福祉実習(1) ・社会福祉演習(2)
看護選択者		<ul style="list-style-type: none"> ・看護基礎医学(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉演習(2) ・保健福祉実習(1) ・受験理科(2)
保育選択者		<ul style="list-style-type: none"> ・発達と保育(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育演習(2) ・保育実習(1) ・器楽演奏（ピアノ）(2)
コース行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア講座 ・病院見学 ・附属みどり幼稚園ミニミニ運動会見学 ・附属みどり幼稚園夏祭り手伝い ・目で見える福祉ツアー（ねむの木学園，有料老人ホーム，盲導犬センター） ・D大学夏期福祉総合講座 ・障がい者スポーツ大会ボランティア ・卒業生講話 ・普通救命講習 ・福祉，看護医療，保育従事者から現場の声を聞く ・ハンセン病資料館見学 ・D大学出前授業 ・看護医療系進学ガイダンス② ・3年生合格者講話 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護医療系進学ガイダンス① ・D大学夏期福祉総合講座 ・修学旅行事前英会話研修 ・卒業生講話 ・国際福祉機器展見学 ・附属みどり幼稚園運動会見学 ・障がい者スポーツセンター研修 ・上級救命講習 ・手話講座 ・D大学出前授業 ・看護医療系進学ガイダンス② ・3年生合格者講話 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護医療系進学ガイダンス① ・D大学夏期福祉総合講座 ・卒業生講話 ・東京臨海広域防災公園見学 ・災害ボランティア講座
ボランティア活動	<p>夏期休業中や時間のとれるときに，必ず年1回以上はボランティア活動を行って欲しい。 例えば…福祉系選択者は，特別養護老人ホームでの納涼祭や夏祭りのボランティアなど。 看護系選択者は，各病院が実施する看護体験など。 保育系選択者は，幼稚園や保育園でのボランティアなど。</p>		

実習が進むにつれ，先生の様子を観察し，紙しばいでは役ごとに声を変えていたり，給食の好き嫌いを把握していたり，園児にできることは自分でさせていたり，常に全体に目を配り臨機応変に対応し，安全にも配慮している等の具体的な記述が増えてきた。また，先生が園児にわかりやすく置き換えて具体的に説明している姿や泣いている園児を短時間で泣きやませる姿

を見て，私もああいう先生になりたいという記述もあった。先生が園児と接している様子から，保育者にとって大切なことを気づけたようだった。

③私自身に対する気づき

実習初日の実習ノートには，緊張して，何をすればいいかわからず戸惑っている様子が多く記述されていた。

実習が進むと、発見と楽しさが増し、園の一日の流れが把握できてきた。虫が部屋に入ってきたとき「遊びにきたんだね」と言った生徒の言葉が、園児に寄り添っていてとてもよかったと先生にほめられて嬉しかったという具体的な記述もあった。また、特定の園児だけではなく色々な園児と話すように気をつけたり、園児の名前を覚えて話しかけたり、園児一人ひとりを見ようと心がけたり、冷静に対処する等の反省から今後の行動を変えようとする記述が増えてきた。さらに、課題として、一人である子には声をかけたりして自分から積極的に動けばよかった。園児と話がかみ合わないことが少しあったから、今後は園児の表情などを読み取り、意思疎通をはかりたい。色々な発見と気づきができるよう、もっと気を配りたい。自分の勉強不足を感じた。紙しばいを読む時に読み間違えがあったり、イントネーションを間違えたりとミスばか

りだったので、これからたくさん紙しばいを読みたい。手遊び歌を学びたいなどの記述も多くあった。

実習を終え、保育の仕事がしたいという気持ちが強くなり、次のような記述があった。園児一人ひとりに気を配り丁寧な対応ができる先生になりたい、園児に平等に接せられる先生になりたい。ピアノが弾ける先生になりたい。給食の好き嫌いがわかる先生になりたい。てきぱき仕事し、自ら行動できる先生になりたい。という理想の保育者像を見つけることもできたようだ。

2) 指導実習におけるふりかえり

①「5歳児に指導する」体験学習をする

・指導者をきめる

5月に実習した5歳児クラスの生徒2名が指導者となる。

・指導する保育内容をきめる

時間	指導の流れとその内容	
10:55	園児が高校の教室に指導者（生徒）の引率のもと2人で手をつないで入室	<p>「今日はクレヨンで絵を描きましょう。 好きな色を使って、好きなように描いていいのよ。 紙が長いでしょう（実際に紙を見せる）。 だから、横に描いていきましょう。</p> <p>a) 地面をかきましょう b) 花が咲いています c) 次に、空をかきましょう d) おひさまをかきましょう e) 山をかきましょう f) 木をかきましょう g) くもをかきましょう h) 雨がふりました やみました i) 虹ができました j) 夕方になりました（園児が夕日と発言） 変更→夕日をかきましょう</p> <p>k) 月ができました l) 星ができました m) おやすみなさい n) 自分の名前をかいてね」</p>
11:00	生徒と園児の対面・名前を教えあう 園児2人に生徒1人がつく	
11:05	紙を配る 床に座って、指導者の生徒のことにそって絵を描く	
11:20	ほとんどの園児が描き終える 一人ずつ描いた絵を皆にみせる 絵を丸めて園児にわたす	
11:30	手をつないで生徒と共に保育室にかえる	

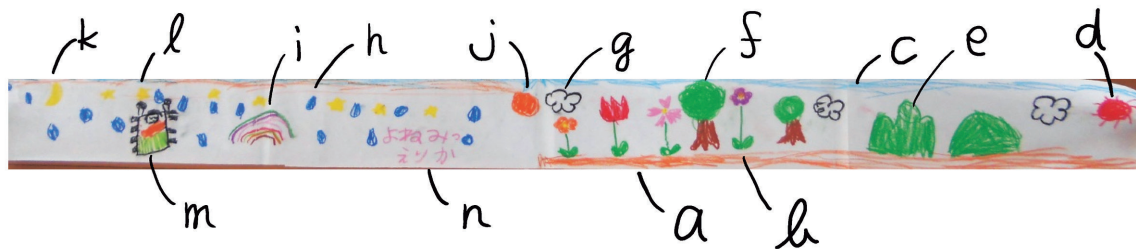


図2 指導の流れとその内容（作品例①）

表2 指導後のふりかえり記録

日時	6月 14日 金曜日
対象	5歳児 29名 (男児15名・女児14名)
子どもの姿	園生活を楽しく過ごし、梅雨の気候の中で元気に過ごしている
主な活動	谷川俊太郎作・長新太絵の絵本「えをかく」を基に自然の中の様子を実習生の指導をもとにえをかく
保育のねらい	土・太陽・雲・空・雨・月・星・山・花・虹を子どもの発想、想像にまかせて好きなようにえをかく

時間	子どもの活動	環境構成・準備	援助の留意点
10:50	生徒N・生徒Tが子どもたちをつれてくる 先生の挨拶 あらかじめ2人組になった子どもたちを実習生1人が担当(Sくん, Yちゃん)	教室をきれいにしてスペースをあける うしろの黒板に子どもの好きな絵をかいておく	雑巾を準備 12.5cm×35cmの長方形の画用紙を準備
11:00	木をかきましようのとき S:「木はねえ…くぬぎの木をかく!」 私:「くわしいね!」 S:「くぬぎはねえくわがたがいるんだよ!」 私:「へえ～.もの知りだね!」 S:「えへへ(笑)」	紙の白い部分が無くなったら新しい画用紙をのりではる	Y先生が最後に子どものクレヨンを持ち帰るのに大きな袋を準備していた クレヨンでかかせる(マジックだと下に写って消えないから)
	夕方になりましたのとき 私:「Yちゃんなんで雲が赤いの?」 Y:「…夕方になるとね,雲が赤くなるの…」 私:「あ!そうだね!よくみてるね」		夕方になりましたと言ったら子どもが夕日と発言したから夕日をかかせる
11:30	記念撮影 担当した2人組と一緒に幼稚園に戻る.		

谷川俊太郎作・長新太絵の絵本「えをかく」を教材とする。

生徒への指導のねらい…生徒にとっては初めての指導である。構えずに自分を自然に出せるもので、園児のありのままの姿を知ることができる教材「えをかく」を選択する。「えをかく」は絵本であるが、絵をみせないで、絵本の中にかかれていることばを引用したり参考にして指導する。

園児へのねらい…園児が生活している中で、いつもふれたりみたりしていることを感じたまま、考えたまま自由に自分なりに表現し、楽しみながら絵を描くことをねらいとする。

・生徒が準備したもの

白画用紙を12.5cm×35cmにする
園児数 35名×2枚=70枚(各組)

園児には、各自クレヨン1箱を持参してもらう。



図3 園児の作品例②

・指導日

平成25年6月14日（金） 天気：晴れ

5歳児 29名（男児15名・女児14名） 指導者（生徒）2人

指導内容＝長新太の絵はみせず、谷川俊太郎のことばを参考に「～しましょう」をつけて、園児に語りかける。

図2は、その指導内容と指導の流れである。

②指導後のふりかえり記録

園児が保育室に戻ったあと、指導実習のふりかえりをかく。

16名の生徒のふりかえり記録の中から、園児との会話が記録されており、その場の雰囲気がわかる生徒Aの記録を表2にした。

③園児の作品

図3は、29名がかいた作品の中から、生徒がふりか

えりの記録の中で発見した子どもの絵を作品の例として図3の②で示した。

④ふりかえり記録

－どうしたらよかったか・失敗したこと－

指導者になった生徒は、読み進める時の声の大きさや感情を入れて読めばよかったと、子どもたちの様子を見て感じた。

「もっとほめてあげればよかった」という記録が多くの生徒の記述にあり、子どもたちに対してほめる言動（スキンシップや言葉かけ）が自然に行われていたことが読み取れ、意識的にほめていく必要性にも気づきはじめた。

－子どもを発見する－

・「おやすみなさい」の時に「夜だから虹とかも消えちゃうよね」と言って、今まで描いた夕焼けの上から黒く塗りつぶした場面(図3のC)や夕方をイメージして先に描いてあった雲を赤く塗る場面

(図3のF)の過程を、子どもの様子を直に体験することで、子どもの感性や想像力の豊かさに気づき、驚いている。

- ・指導後のふりかえりの記録(表2)にもあるように、多くの子どもたちは絵と関係のある思い出を話ながら描き進める様子を発見した。
- ・明るいたくさんの色を使うことに気づき、観察できた。
- ・子どもたちの発想は、私(生徒)には思いつかないようなことも多く、また迷わずに描いていたと述べ、いろんな色で山が塗られていた。肌色のオリジナルな雨。雨の表現の仕方の違い。「夜」を黒色で表現する。「夜」から連想しておぼけを描くなど、具体的な例示が多く見られた。(図3園児の作品例②)

V. 考 察

生徒たちは園児たちとふれあう中で約3年間のふりかえり学習を通して、保育を学び、自分自身を変革していく過程が読み取れた。子どもに視点をおいた捉え方は、かわいい、明るい、元気と捉え、実習においては遊びの様子などを観て、園児の行動を分析する記録がみられた。指導した立場では、子どもの個性をみて尊重し、子どもの想いまで捉え、「もっとほめてあげればよかった」など、子どもによりそう記述が多くみられた。しかし、生徒たちは“じょうず、うまいね、よくかけている、いいね”などの常套句しか言えていない現実に直面した。そこから「もっとほめてあげればよかった」というふりかえりが出てきたのであろう。この褒め言葉に対して、生徒たちはどのくらい周りの人たちから褒め言葉をかけてもらっているのであろうか、生徒を取り巻く我々にも課題の一つである。また、幼稚園の担任から、生徒が園児の気持ちに共感してくれたことによって、絵を描くことに苦手意識をもつ園児も楽しく生き生きと描くことができたとの報告もあり、共に育ちあいの相乗効果があった。

保育者に対する視点では、先生はやさしい、すごいと感嘆する記録から、園児に対しての保育指導方法や一人ひとりの園児に対する把握や配慮にも目をむける記録へと変化してきた。また、保育者が生徒にかけたひと言「子どもたちの心によりそってとてもよかった」のひと言が、保育者としての意識をさらに深めた。人との出会いも大きな要素をしめた。

自分への課題および変化については、緊張して何をすればいいのかわからない状態からの戸惑いが、実習を重ねるにつれて、園児と保育者の行動の中から、保育のポイントをつかみ、課題をもつ記録になり、自分の勉強不足を反省する記述が見られた。園児は積極的に話しかけてくる、自分も園児のように意思疎通をはかりたいと、園児の行動やかかわりを通して、自分をふりかえり、自己変革へとつなげ、自分が理想とする保育者像を描き始めた。

特に生徒が一人ひとりの園児に目をむけ、学んだのは、自分たちが保育指導し、生徒1人に対し2人の園児と対応した「えをかく」である。目の前にいる園児たちは自由にのびのびと、自分の思い描く絵を好きな色をつかって、自由に描いていく。その中で園児たちとのコミュニケーション、木をかけば、くぬぎの木、りんごの木、雨をかけば、点々の雨、ザーザーの雨、夕方になりました、と先生役が言うのと黒に塗りつぶす園児、ある園児は「夕日」といいオレンジ色をぬりはじめ、園児を観察し記録をとる生徒の感動は大きなものがあつた。指導におけるふりかえりでは、園児は発想力が豊かで、自由であることを学び、満月にはおぼけが出る、夏だからヒマワリをかくなど園児の発言をしっかりと聞いて、記録がとれていたことである。

保育者として大切なことは、子どもを受け入れること、子どもには発達や個々に違いがあるので遅れて描く子どもの対応には、あせらず、せかさずに待つことと、そしてどうすれば楽しくなるのか見つけることが大切だとわかったなど、子どもを知る、子どもを育てることの第1歩をつかんだ。ふりかえりの学習効果である。生徒は《子どもを見る→気づく→深く知る→共感する→よりそう→子どもを尊重する→子どもは自由である→自己変革》その過程を大学・高等学校・幼稚園の3つの組織の連携の中で、ふりかえりを通して保育を学びそして、将来の保育者として歩みはじめた。

VI. 結 論

将来、子どもとかわるであろう、日本女子体育大学附属二階堂高等学校の保健福祉コースの保育選択者生徒16名を対象に人材育成の目的のため、日本女子体育大学、日本女子体育大学附属みどり幼稚園との連携を柱に、生徒のふりかえりの学習を積み上げて、保育学習を実践した。その結果、人を育てることはどういうことか、子どもを知り、子どもと共感し、子どもに

よりよい、子どもを尊重することを学び、そこから自分自身の行動をふりかえり、どうしてあげたらよかったのかの課題を持ち、保育に対する見方、捉え方、子ども観などの変革もみられた。1年次では子どもはかわいい、元気など世間一般の枠で子どもを捉えていたのが、幼稚園という集団の中で実習をしてみて、子どもを指導した中で、子どもの個という存在と尊重することの大切さをプロセスを通して学んだことがうかがえた。そこには大学、高等学校、幼稚園が協力連携し共通理念の中で一人ひとりの生徒に向き合い、丁寧にかかわったことが効果をもたらした。環境・人・もの・時間の相互関係が『人を創る 人が育つ 人が変わる』要素になることが調査で確信することができた。今後、保育選択者たちは次の未来の地で、3年間で学んだ保育のふりかえりの基礎力を土台にして、学びの連続性を持ちつづけて、保育者としての質と層の深さを育て歩いてほしい。地域のニーズ、子育て支援、変革する保育界を適確に捉え、子どもの健やかな成長・発達を支え、子どもが幸せに生きていけるように、保育者として成長することを願い、期待する。

VII. 文 献

1. 引用文献

作：谷川俊太郎 絵：長新太 (2003) えをかく, p2-50, 株

式会社講談社, 東京.

2. 参考文献

- 1) 岡野雅子 (2006) 中高生・高校生の保育体験学習に関する一考察 - 幼稚園, 保育所から見た課題 -, 信州大学教育学部紀要117, 25-36.
- 2) 岡野雅子, 伊藤葉子, 倉持清美ほか (2012) 中・高生の家庭科における「幼児とのふれ合い体験」を含む保育学習の効果 - 幼児への関心・イメージ・知識・共感的応答性の変化とその関連 -, 日本家政学会誌 vol 63, No 4, 175~184.
- 3) 砂上史子, 日景弥生, 中嶋明子ほか (2005) 高校家庭科における保育体験学習の意識変容 (第2報) - 生徒の感想文にみる保育体験学習の経験内容の分析 -, 日本家庭科教育学会誌48(1) 10-21.
- 4) 中嶋明子, 砂上史子, 日景弥生ほか (2004) 高校家庭科における保育体験学習者の意識変容 (第一報) - 保育体験学習者の意識変容過程の構図化 -, 日本家庭科教育学会誌46(4) 351-361.

(平成25年9月9日受付)
(平成25年12月18日受理)

